

目次

第1章

統計で見る横浜の今	3
人口	4
世帯	8
土地利用	12
経済	14
環境	17
観光	20
子育て・教育	22
健康・医療	26
福祉	30
仕事	33
地域活動等	36
住まい	38
情報化の進展	40
生活に関する意識	42
政令市(20都市)比較	45

第2章

意識の傾向から 市民像を描く	47
活躍に関する意識から見る 8つの市民像	48
市民像1	50
市民像2	52
市民像3	54
市民像4	56
市民像5	58
市民像6	60
市民像7	62
市民像8	64
【コラム】 回収率と調査結果の偏り	66

第3章

日常生活の中での「活躍」	67
日常生活における活動	68
●年代別に見る	
若者世代の価値観と「活躍」18～29歳	70
働き・子育て世代の家庭と「活躍」① 30～49歳	78
働き・子育て世代の家庭と「活躍」② 50～64歳	84
高齢者の日常生活と「活躍」65歳～	90
●活動別に見る	
活動と生活満足度、やりがい	98
【コラム】市民活動の現場からみる 市民活動・地域活動の変化	105
【コラム】データを市民の皆さんと 共有し、よりよい生活につなげよう	106
市民の「活躍」といとはま	107
【巻末資料】日常生活の中での活動に 関する調査「単純集計結果」	111

はじめに

私たちは今、少子高齢化の進展とともに、戦後初めて人口が減少に転じる大きな転換期にいます。

近年のAI、IoTなどの情報技術の進展は、社会構造を劇的に変え、働き方や人との関わり方など私たちの行動や意識も大きく変化し、多様化しています。

また、一億総活躍社会、女性の活躍などの言葉にあるような、一人ひとりが仕事や家庭、地域などで能力を発揮したり、生きがいを感じることができると社会の実現に向けた取組が進められる中、私たちの暮らしに何が起きているのでしょうか。

第14回目となる今回の横浜市民生活白書は「日常生活の中の『活躍』」をテーマとし、日々の暮らしの中で行っている様々な活動を『活躍』として捉え、どのような活躍が、どのように行われているのかについて、市民生活に関する統計や意識調査などを基に、現状を把握することを試みました。

本白書の基礎とするため実施した「日常生活の中の活動に関する調査」(平成30年7月)にご協力いただいた方々にこの場をお借りして厚くお礼を申し上げますとともに、この白書がこれからの横浜を共に考えていくための一助となることを願います。

